

読み物特集

男の本音つきあうとき

山口 それは全くありませんね。
横尾 中学生とか高校生のときは、なんか変に陶酔してきたのね。プロになって、陶酔の時間がないっていうのは、さみしいなって気がするのね。だからこそっていうか、仕事以外に好きなものを見つけてようとしちゃうわけ。はるみさんだって、ピンポンがあるのね、マージャンがあるのね、野球があるのね、知らないけど、どうしてそうやっていくんでしょう？
山口 それはありますね。仕事の面では、次に出す絵にしろ曲にしろ、今までのスタイルの延長線上で修業をつづけていくでしょう。それがごくごく、わたしなんか安易にやっているというふうに見えてしまうし、確かにそうなんだけども、で、そういう世界から抜け出した一つの衝動として遊びがあるというのか、よくわからないけれども……。
横尾 ぼくは、そうは思わない。はるみさんの中にモノマニアックなものを見るね。ほんとに仕事と対決しているという感じがするわけ。防毒マスクみたいなものを付けてね。ぼくは見たことないけど、ものすごく格好をしてるらしいですね。
山口 そうでもない。ただ、マスクしているだけよ。
横尾 ぼくはあんなに肉体的に仕事やっていると、小さい紙にチョコチョコチョコと指定してさ、スポンサーががっかりして、こ

んなのに原稿料払えるかなあ、これ持って帰って部長や課長に見せた場合、「おまえ、なんという原稿もらったんだ」としかられている担当の編集者の表情がありありと見えるよ。うておもしろいんだけどさ。
●わからずやしてるとか許せる。と感したとき、かわいと思っちゃう
横尾 あれ、どういうんだらうね。うちの中学二年生の娘が、「秀樹、かわい、かわい」と言うのね。最初は西城秀樹のところに、ロッキーという犬がいるの、その犬のことかと思つたら、そうじゃないのね。あんな大の男をつかまえて、「かわい」と言ってるのね。
山口 よく女同士で話しても、男の人に対して、「かわい」という表現が多く出るのね。横尾 それは自分より年配の男性に向かってこそ言うわけね。

山口 ええ。男の人のロマンとかこっけいさなんかを目撃したときに、「かわい」という感じを持つてしまうんじゃないかしら？
横尾 こっけいさにかわいさがあるなんて言われると、次元が低くて、バカにされたような救われぬような感じがするな。でも、対象をかわいと思える視線の中には、相手のモノにできるという感覚がどっかに含まれてるよ。いくら美人で顔立ちが優しくて身長一七〇センチ以上の女の人を、男はかわいと思えないもの。
山口 直球一本やりの男性が、何かでしくじつたりしたときとか、はみ出したりしたときとか——そんな瞬間ね。やっぱり、力の込めようというか、熱意とか、そういうものがフツとはずれたときに感じるんで、いいかげんにやっているとこを見ても感じない。
横尾 男性が女性に向かって、「かわい」というのは大衆の前では言えないね。一対一

山口 ふーん。新しいタイプの人間、新人類の出現ってことなのかな。若い世代は、知ってことを体験そのものを通さないで、映像とか、そういうもので知っていく——そういう育ち方ってのがありますね。
横尾 あるね。新しい人種にとって、それもまた体験じゃないかと思うの。ぼくらは体験とくらえないけど、で、今後は、ガルブレイスが「不確実性の時代」で言っているように、これから体験の時代だね。パルコなんか意識産業ですが、体験産業。なんて産業があるし、生まれてきている。たとえば、どっかにものすごく宇宙的なジェットコースターみたいなのができて、それに乗る人間の耐えられる限界ぎりぎりまで作ってあって、疑似宇宙体験をやらせるわけ。宇宙へ行つたと同じくらいの第六感の体験だね。
山口 そういう時代に入つて、男と女の色気とロマンチズム。ってことになると、もうわれわれが論じて、追いつかないぐらい、すごいのが出てくるような気がするね。

構成/松崎康憲 撮影/久保貴典



対談を終えてホテルの駐車場を歩く、忙いおふたりにとっては、解放の一瞬



山口 女性は常識的なことしかできないけれど、男はなんにでもチャレンジして活発にやってくる。うまうまといったり、しくじったりしながらも、それがうらやましいみたいな、すてきなまなざしがある。わからずやしてるとか許せる。っていう感覚を持つたとき、ふつと、かわいいなと思ってしまうのね。
横尾 かわいいなと思われている男性は、全くかわいいなということと無縁のことをやっているんだね。それを、「かわい」と言われるんだから、笑、やっぱり女性のほうが宇宙的で広大ね。
山口 ところで、人類学者の今西錦司さんにお話伺ったことがあるんだけど、昔の赤ちゃんと手を握って生まれてきたんだけど、最近の赤ちゃんは全部手を広げて生まれてくるんだって。
山口 ふーん。新しいタイプの人間、新人類の出現ってことなのかな。若い世代は、知ってことを体験そのものを通さないで、映像とか、そういうもので知っていく——そういう育ち方ってのがありますね。
横尾 あるね。新しい人種にとって、それもまた体験じゃないかと思うの。ぼくらは体験とくらえないけど、で、今後は、ガルブレイスが「不確実性の時代」で言っているように、これから体験の時代だね。パルコなんか意識産業ですが、体験産業。なんて産業があるし、生まれてきている。たとえば、どっかにものすごく宇宙的なジェットコースターみたいなのができて、それに乗る人間の耐えられる限界ぎりぎりまで作ってあって、疑似宇宙体験をやらせるわけ。宇宙へ行つたと同じくらいの第六感の体験だね。
山口 そういう時代に入つて、男と女の色気とロマンチズム。ってことになると、もうわれわれが論じて、追いつかないぐらい、すごいのが出てくるような気がするね。

構成/松崎康憲 撮影/久保貴典

あなたがダイエット (DIETENE) を9日間だけ、のんでみませんか。
ダイエットは、1972年にアメリカで開発されたダイエット食品。ミルク・プロテインと海藻 (Sea Weed Extract) が入っています。海藻によって快い満腹感がえられ、ミルク・プロテインによって体内の余分な脂肪をエネルギーとして消化してしまふ仕組みが



また、ダイエットは、天然のものだけでつくられた食品ですから、身体に無理をあたえず、味も淡泊で非常に、のみ方もいたって簡単。牛乳にとかして食前などの空腹時にのんでいただくだけでいいのです。
あなたもおためしになってみませんか。ダイエット (450g) は、全国の薬局にありま。なお、品切れの際は直接発売元へ

お申し込みください。
定価2800円 (送料200円) パンフレットの希望者も発売元へどうぞ。
発売元 株式会社カン・ダイエット
〒101 東京都千代田区神田淡路町一丁目
TEL 03 (255) 8601 (代)

たった9日間の減量作戦!

自分を醒めた目で演出できるジューのすざと色気

山口 どういう点に男の色気を感じますか。自分、よく聞かれています。自分の色気にどっか意識を働かせる人には、まず絶対に色気を感じないと思うのね。一心不乱というか、全然違うことを考えていたり、行動している瞬間にこそ感じるわけ……。
横尾 高倉健さんの場合を例にとると、あの

人は精神的にちっとも満たされていないんですよ。いくらブルーボン賞をとったって、アカデミー主演男優賞をとったって、健康で全然満足してない人だと、ぼくは思うのね。ぼくはそれがあの人の魅力であり、色気の源だと思ってる……。
山口 そうですね、いまの若い男性というの、あまり色気ないのね。自分の内面を掘り下げることを忘れて、外面をより立て、積み重ねることに夢中になっている……。
山口 かついて、自分のことを、「ダメだ、ダメだ」と言うのも色気ないしね。お酒飲んで、すぐに「ダメ」を連発する男って、全く色気がない。男性の色気っていうのは、すくなくむずかしいですね。紙一重の微妙な綱渡りって感じ……。
横尾 あることに酔ってしまふんじゃない、距離を持って醒めている意識のあるほうが、色気が感じられると思うの。たとえば、ジュリーね。陶酔して歌っているみたいでも、醒めてるところがあるんだって。歌っているとき、指をパツとさしたほうのカメラが彼をとらえてないことがあって、カメラマンのほうがあわててしまうこと、よくあるんだってね。
山口 ジュリーって、ラジオで素で出てフリ